

Trias 企業メモ 2010-04-23

(3377 東証 2 部) 株式会社アイケイコーポレーション
2010 年 8 月期 第 2 四半期決算説明会サマリ

2010 年 4 月 12 日、株式会社アイケイコーポレーション(以下、アイケイコーポレーション)の 2010 年 8 月期第 2 四半期(2009 年 9 月—2010 年 2 月)の決算説明会が開催されましたので、概要をご案内いたします。

説明会出席者: 取締役会長 石川秋彦氏、代表取締役社長 加藤義博氏、取締役副社長 大谷真樹氏、
取締役 山縣俊氏

加藤社長による決算説明の概要は以下の通りです。

【第 2 四半期 連結決算概要】

2010 年 8 月期第 2 四半期累計(2009 年 9 月—2010 年 2 月、上期)の連結売上高は前年同期比 5.2%増の 113 億円を計上、営業利益は 157 百万円の赤字となった。上期累計では会社計画に対し若干未達となったが、2Q 単独(12—2 月)では、1Q(9—11 月)の 268 百万円の営業赤字に対し、110 百万円の営業利益を確保した。

<買取販売>

当社の主要販売先である中古二輪車オークション市場は、2008 年 10 月より世界的な不況と円高により、輸出業者を中心に買い控えが続き、単価も大幅に下落していたが、2010 年に入って、1 月、2 月と昨年を上回って推移する等、需要期に向けた上昇の兆しをみせる。また二輪車オークション市場における出品台数、成約台数も 2009 年暦年はほぼ前年並みとは言え、成約台数が若干減少したが、2010 年 1—2 月(2 ヶ月)の成約台数は前年比 15.8%増と回復傾向にある。

当社の上期の販売台数は前年比 17.0%増加の 79,244 台となった。これは、テレビ CM 等で雨上がり決死隊に、タレントの優木まおみを追加起用し新たな顧客層の拡大を図ったことに加え、バイイング形態の変更等今期の広告戦略における重点施策を実施し、申込件数が堅調に推移したこと等によると思われる。また、上期の平均売上単価、平均粗利額は予想を下回ったが、各指標は 2Q から改善してきている。

2Q の販売台数は、季節要因により対 1Q では減少となったが、前年同期比では 19.7%増加と堅調に推移した。買取成約率は 1Q の 81.3%から 2Q は 82.9%に改善し、平均売上単価はオークション市場の回復に伴い、1Q 126,208 円から 2Q 131,730 円へと上昇、平均粗利額についても粗利額確保の施策効果が発現したこと等により、1Q 62,790 円から 2Q 71,232 円に改善した。

その結果、2Q の買取における粗利額(販売台数×平均粗利額)は 1Q 比 173 百万円増加し、営業利益の黒字化へとつながった。なお、計画通り「バイク王」店舗の新規出店はせず、100 店舗を維持。1 店舗当たりの生産性向上により販売台数の増加に対応している。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【表1】買取販売 四半期実績

(百万円)	FY8/09 1Q 実績	FY8/09 2Q 実績	2Q 前年同期比
売上高	5,255	5,159	15.1%
売上総利益	2,618	2,818	18.7%
営業利益	△ 252	167	--
経常利益	△ 248	199	--

<小売販売>

オートバイユーザー向け小売販売台数は、「バイク王」ブランドへの統合等により前年比で増加したが、計画を下回った。一方で平均売上単価、平均粗利額は概ね予想通り推移し、また販売管理費のコントロールも奏功して業績は概ね予想通りに推移した。

<駐車場・パーク王>

駐車場・パーク王については、引き続き採算性を重視しながら事業地開発を進め、上期は予想通り経常黒字での着地となった。

【表2】第2四半期累計決算概要と通期予想

(百万円)	FY8/09 1-2Q 実績	FY8/10 1-2Q 実績	前年 同期比	FY8/10 通期 予想	前年 同期比
買取販売					
売上高	10,188	10,415	2.2%	22,642	2.5%
売上総利益	5,264	5,436	3.3%	--	
営業利益	51	△ 84	--	1,026	23.1%
経常利益	51	△ 49	--	1,021	21.7%
小売販売					
売上高	889	1,145	28.8%	3,017	30.9%
売上総利益	270	365	35.2%	--	
営業利益	△ 143	△ 79	--	△ 46	赤字縮小
経常利益	△ 130	△ 68	--	10	黒字化
駐車場(パーク王)					
売上高	163	259	58.0%	591	50.1%
売上総利益	8	40	370.4%	--	
営業利益	△ 28	4	--	32	黒字化
経常利益	△ 12	11	--	22	黒字化
連結					
売上高	10,756	11,313	5.2%	24,587	4.6%
売上総利益	5,543	5,844	5.4%	--	
営業利益	△ 120	△ 157	--	1,016	57.3%
経常利益	△ 92	△ 135	--	1,043	55.3%
当期純利益	△ 113	△ 109	--	536	113.5%

注：2010年8月期予想は2010年4月8日発表の会社予想

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【2010年8月期 業績見通し】

各事業の通期業績予想については、10月時点の見通しから変更はない(【表2】参照)。下期も効率的な広告出稿を実施し、販売台数の増加につなげていく計画である。平均売上単価は、現状のオークション相場に季節変動を加味して想定している。仕入れ単価のコントロールを継続し、粗利額を確保していきたいと考えている。

年間配当は前年度同様の1,200円を予定している。また、2009年12月に自己株式の取得を実施した(7,000株、発行済み株式数の4.6%)。なお、2月末の株主資本比率は74.2%と引き続き財務体質は健全である。

【質疑応答】

Q1. オークション市況は2009年12月から上昇に転じているとのことだが、バイク王の平均売上単価は第2四半期でもまだ前年同期比で下落しているのは何故か。

A1. 中古二輪車オークション市場と当社の排気量構成の違い等があるため一概には言えないが、当社の原付バイクの比率が増えていること等が要因であると考えられる。原付比率は、お申込み時の対応等によるコントロールを検討したい。

Q2. 2010年8月期の業績は、過去の水準から大幅に落ち込んだ前期(2009年8月期)からは回復する見通しだが、長い期間で見ると現在の位置はどのあたりか。今後過去の利益水準まで回復することは可能か。

A2. 今期予想の平均粗利額約7万円は、現状の単価水準と、お客様の満足度を考慮するとほぼ適正水準と考える。過去の8万円の水準を達成するためには、平均売上単価もある程度過去の水準に回復することも必要。過去のピークである18億円の利益を出すということであれば、販売台数を現状のペースで増加させることで可能であると考えられる。

Q3. 平均売上単価が以前の水準に近づくためには何が必要か。

A3. 平均売上単価はオークション市場次第という面が大きいですが、過去数十年で昨年のような価格まで下がったのは初めてであり、底は打ったと考えている。現在、環境は好転してきているので、リペアや整備の環境を整え、さらに物流体制を強化する等して、付加価値向上につなげていきたい。また、当社の顧客には「手離し層」と「買い替え層」があるが、後者向けに広告等で「バイク王」をアピールし、単価アップにつなげていきたい。

Q4. 広告効果をどう考えているか。

A4. 広告は、まず入り口である電話での問い合わせ本数をいかに増やすかが重要であると考えている。これに関しては毎年新しい媒体を試す等してノウハウを積み上げてきている。上期は買取成約率が下がったにもかかわらず成約台数は増えているが、これは、顧客との最初のコンタクトである、電話による問い合わせが増えたことが奏功している。

(以上)

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【ご参考】(3377)株式会社アイケイコーポレーション

連結主要指標と業績の推移

連結主要データ		
発行済み株式数(株)	2010.2月	152,856
うち自己株式数(株)	2010.2月	7,000
時価総額(百万円)	2010.4.22	4,968
一株当純資産(円)	2009.8月	30,460.5
ROE(%)	2009.8月	5.4
ROA(%)	2009.8月	3.9
PER(倍)	2010.8月予	8.9
PCFR(倍)	2009.8月	8.1
PBR(倍)	2009.8月	1.1
株価(円)	2010.4.22	32,500
単元株数(株)	2010.4.22	1
日々平均出来高(株)	2010.4.22	218

連結主要データ		
総資産(百万円)	2009.8月	6,350
自己資本(百万円)	2009.8月	4,656
有利子負債(百万円)	2009.8月	238
自己資本比率(%)	2009.8月	73.3
有利子負債比率(%)	2009.8月	5.1
フリーキャッシュフロー(百万円)	2009.8月	△ 81

注: ROE=当期純利益÷期首と期末の自己資本の平均

ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均

PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)

日々平均出来高=過去1年間の平均

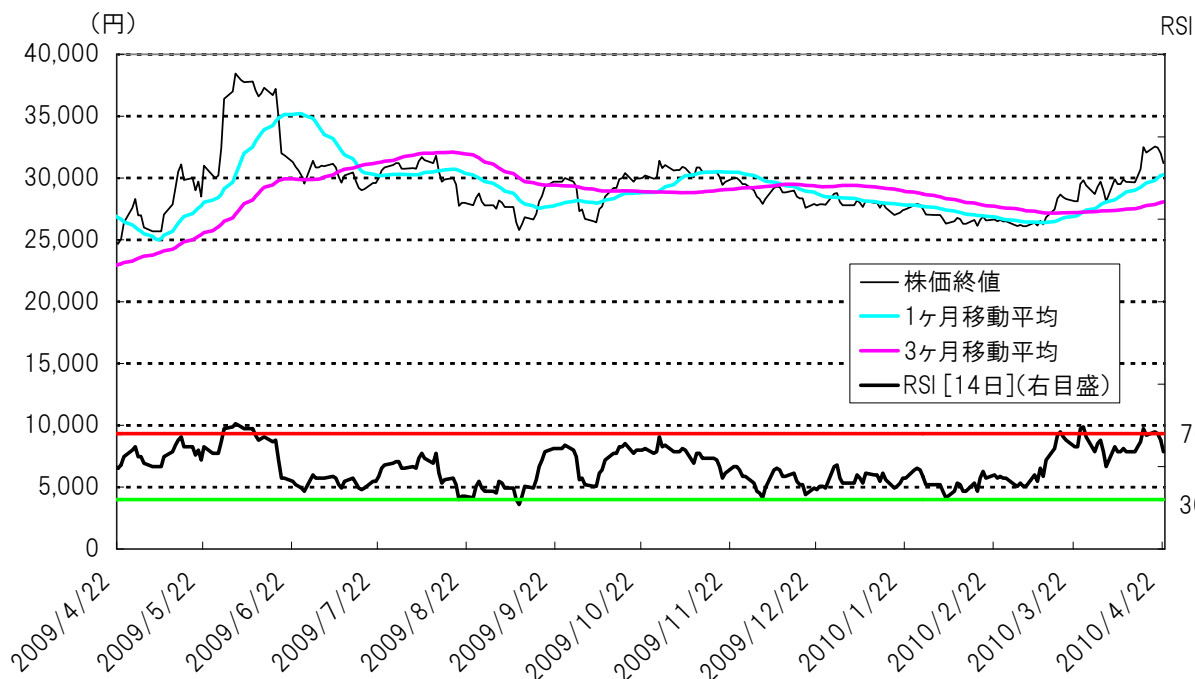
有利子負債比率=有利子負債÷自己資本

フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF

連結(百万円)	売上	営業利益	経常利益	純利益	一株益(円)	一株配(円)
2006年8月期	16,709	1,182	1,265	616	4,182.00	600.00
2007年8月期	20,379	1,574	1,604	740	4,859.27	300.00
2008年8月期	24,588	1,864	1,904	847	5,555.13	800.00
2009年8月期	23,502	646	671	251	1,643.75	1,200.00
2010年8月期第2四半期	11,313	△ 157	△ 103	△ 109	△ 738.09	600.00
予2010年8月期	24,587	1,016	1,043	536	3,644.12	1,200.00

注 2010年8月期予想は、2010年4月8日発表の会社予想

株価チャートとRSI



出所: Bloombergのデータを基にトリアス作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ度」や「売られ過ぎ度」を指数で表したもの

一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われる

$RSI = \frac{N日間の値上がり幅平均}{(N日間の値上がり幅平均 + N日間の値下がり幅平均)} \times 100$

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。